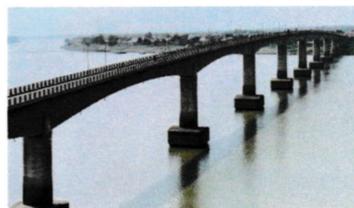
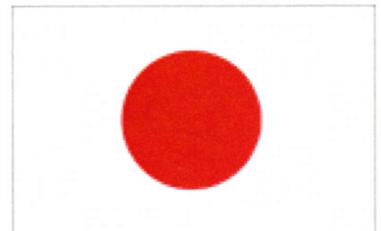


カンボジア王国＝日本国愛知県幸田町
＝フレンドシップ交流・10年の歩み＝
幸田町国際交流協会



2015.11

企画・作成 幸田町国際交流協会
KOTA INTERNATIONAL ASSOCIATION

序文

私たちは 2005 年愛知県で開催された「愛・地球博」でカンボジア王国をフレンドシップ交流相手国として、催時参加実行委員会を組織するなど町をあげて取り組みました。



カンボジアの蚕の吐き出す糸のように細くても強靱に混じり気のない純粋な志で途切れることなく、やがて美しい大きな布地に仕上がるように・・・

そんな気持ちで、この 10 年余を通し交流を続けてきました。

今後も愛・地球博の理念に基づき、フレンドシップ活動を未来永劫続けていきたいと思えます。

2003年12月

*写真で回想

チャム プラシッド商務大臣来町



△カンボジアの万博参加、担当大臣一行を近藤町長他関係者で歓迎した。カンボジア側の熱意に感服し将来の交誼を誓った。

2004年7月

今川幸雄氏（元駐カンボジア日本大使）

講演会開催



△1991年 カンボジア最高国民評議会担当大使。
△1992年 駐カンボジア日本国特命全権大使。
△氏のご功績からカンボジア前国王シハヌーク氏と現首相フンセン氏の信頼の大変篤い方。
△2003年よりKIAはご指導を仰いでいる。

11月

カンボジアへ第1回「フレンドシップ旅行」実施



△プノンペン大学の学生らと交流会を持った。

2005年3月

「愛・地球博」開幕 カンボジア館オープンに協力



△カンボジアパビリオン設営に積極的に協力。

△カンボジアナショナルデー（5月10日）には幸田町より400人参加。

5月

幸田町で「フレンドシップ交流会」開催



△カンボジアナショナルデーの翌日、幸田町で盛大に「カンボジア-幸田、文化交流会」を開催し、1,000名参加。

△カンボジアからは「ロイヤル・バレー」チームが参加本場（オリジナルなアプサラダンス）の文化に接することができた。

7月

CJCC所長オム ラヴィ氏ほか1名来町



△前、CJCC所長 現、王立プノンペン大学副学長。
△KIAの「CPCプログラム」の初期指導者、現在もご指導を得ている。

2005年9月

「愛・地球博」幸田の日にKIAも参加



△名古屋大学、カンボジア留学生もココナッツダンスを披露。

9月

上智大学、石澤良昭学長を招き町内で講演会を開催



△氏はクメール史、アンコール史における世界的権威。
△上智大学アンコール遺跡国際調査団長、アジア人材養成研究センター所長。

11月

カンボジア館出展の「アンコールワットのミニチュア」幸田町へ譲渡



△カンボジア人のアイデンティティ、クメール文化の最高傑作 アジア人の誇る世界遺産であるアンコールワットそのミニチュアがパピリオンの中心展示品であった。
△その展示された本物を幸田町が譲り受けた。
△町の宝物として町内で保管展示中。

2006年7月

「彦左まつり」にカンボジア山車参加
CSAN学生20名参加



△「愛・地球博」幸田の日に
合わせKIAで製作した。
カンボジア山車を町内で初披露。
△名古屋大学、カンボジア留学生の
会「CSAN」がこの山車を
曳き町内を練った。

2007年2月

カンボジアへ小学校建設支援募金活動開始



△幸田ライオンズクラブの活動に
積極的に協力。
△カンボジア、フレンドシップ
旅行の度にKIAも訪問。

2008年9月

CJCC推薦のカンボジア青年5名を招聘



△フレンドシップ継承交付金
事業としてカンボジア青年
5名を招いた。
△町内外の見学、交流実施
「カンボジアの人材育成」
事業として協力した。

2009年9月

JENESYSプログラムでカンボジア学生
18名来町



△非常に多くのご家庭に
ホストファミリーを
お願いした。

2010年8月

CLAIRプログラムでカンボジア青年4名を招聘



△CLAIRプログラムで
カンボジア青年4名を招聘
△2週間、町内外で研修実施
△これらの青年たちは今は
カンボジアに帰り社会人と
して大いに活躍している。

2011年8月

名大法学部夏季セミナー参加のカンボジア学生
6名来町



△幸田町の青年・学生たちと交流をしていただいた。

2012年10月

元駐カンボジア日本大使 今川氏 K I Aの紹介で
名古屋大学で講義



△2日間にわたり講義していただいた
初日はカンボジア人留学生を対象に
クメール語で。2日めは一般学生を
対象に英語で。

△1975～のカンボジアの大壊滅
状態から国際支援で立ち直った
実績と第二次世界大戦後のカンボジアと
日本の友好関係の実績をご自身の外交
努力を交え講義頂いた。

2013年7月

C P Cプログラム推進のためカンボジアから研修生
2名を招聘



△C P C：「カンボジアの就学前幼児の知育・保育を支援する活動」
現在K I Aが最も力を入れているプログラム。

12月

C P Cプログラム推進のため3人の調査員を
カンボジアへ派遣



△町立保育園園長、私立幼稚園副園長、K I A総務部長が研修。

2014年9月

CPCプログラム推進のためカンボジアから
研修生2名を招聘



△主として保育と教材開発を中心に研修を重ねた。

2015年9月

CPCプログラム推進のためカンボジアから
研修生3名を招聘



△今回は・日本の「保育」の研修 ・日本の「保育士制度」の理解、導入
・各種教材、器具の開発、活用の3項目を研修目的とした。



△「愛・地球博」10周年記念事業（愛知県主催）に積極的に参加。

「交流記録」

カンボジア王国＝幸田町

「フレンドシップ交流記録」 (抜粋)

幸田町国際交流協会 (2015.11)

- 2003.08月 ・カンボジア王国を「フレンドシップ交流相手国」に決定
- 12月 ・チャム プラシッド商務大臣来朝
- 2004.07月 ・今川幸雄氏 (元駐カンボジア日本大使) の講演会開催
- ・「彦左まつり」にカンボジア山車参加 在名古屋
大学カンボジア留学生 (CSAN) 10名参加
- 09月 ・カンボジア料理講習会開催
- 11月 ・カンボジアへ「第1回フレンドシップ旅行」実施
- ・インケット駐日カンボジア大使来町
- 2005.01月 ・幸田凧揚げ大会に「カンボジア凧」参加
- 03月 ・「愛・地球博」開幕 カンボジア館オープンに協力
- 05月 ・「万博 カンボジアナショナルデー」に町民400名参加
- ・幸田町で「フレンドシップ交流会」を開催
- ・チャム プラシッド大臣ほか約50名のカンボジアの
関係者 (政府要人、ナショナルダンサー、報道陣) 来町
- 07月 ・CJCC所長オム ラヴィ氏ほか1名来町
- 09月 ・上智大学 石澤良昭学長 来町 講演
- 11月 ・カンボジア館出展の「アンコールワットのミニチュア」
幸田町へ譲渡
- ・カンボジアへ「第2回フレンドシップ旅行」実施
- 2006.07月 ・彦左まつりに「カンボジア山車」参加 CSAN学生20名参加
- 09月 ・上智大学 丸井雅子講師 来町 講演
- 11月 ・カンボジアへ「第3回フレンドシップ旅行」実施
- 2007.02月 ・カンボジアの小学校建設支援募金開始
- 07月 ・彦左まつりにカンボジア山車参加 CSAN学生20名参加
- 08月 ・幸田「夏まつり」に駐日カンボジア大使館のチム
キアター公使ほか1名来町 CSAN学生20名参加
- 2008.01月 ・KIA国際交流パーティに留学生8名参加
- 09月 ・フレンドシップ継承交付金事業でCJCC推薦の
カンボジア青年5名を招聘 2週間滞在し研修
- 11月 ・副町長、議長 シエム レアアップ州を表敬訪問
- ・カンボジアへ「第4回フレンドシップ旅行」実施

- 2009.07月
 - ・彦左まつり 駐日カンボジア大使 来町
関係者と懇談 大使は同日来町のCSAN学生と懇談
共にまつり参加
- 2009.09月
 - ・JENESYSプログラムでカンボジア学生18名引率者
(カンボジア人) 2名 来町 1週間滞在し研修、交流
- 2010.04月
 - ・名古屋大学構内のCSAN春のパーティに参加
- 07月
 - ・彦左まつり CSAN17名参加
- 08月
 - ・名古屋大学法学部夏季セミナー参加のカンボジア学生2名 来町
 - ・CLAIR (宝くじ基金) プログラムでカンボジア青年4名
招聘 2週間滞在、研修
- 11月
 - ・カンボジアへ「第5回フレンドシップ旅行」実施
 - ・幸田町長、副議長 シエム レアップ市 表敬訪問
- 2011.04月
 - ・CSAN恒例の名古屋大学構内での春のパーティに参加
- 07月
 - ・彦左まつりにCSAN学生16名参加
- 08月
 - ・名古屋大学法学部夏季セミナー参加のカンボジア学生6名来町
ホームステイ、町内大学生と交流
 - ・幸田「夏まつり」参加 CSAN学生5名招聘
- 2012.04月
 - ・CSANの春祭りに参加
- 07月
 - ・12名のCSANの学生が彦左まつりに参加
 - ・プノンペン大学副学長のオム ラヴィ教授と懇談(神戸にて)
- 08月
 - ・KIAメンバー3人がCJCCを訪問し日本文化(書道)紹介。
- 10月
 - ・元日本国駐カンボジア大使 今川氏がKIAの紹介で名古屋
大学に招待され2日間にわたって講義をされた。
- 2013.03月
 - ・「CPCプログラム」が認可された。
- 07-08月
 - ・CPCプログラムを推進する為にカンボジアから2名の研修員
を招聘し2ヶ月間幸田町、内外で研修した。
- 08月
 - ・名古屋大学法学部の夏期講座に参加中のカンボジア学生3名を
受け入れホームステイなどで交流した。
- 12月
 - ・CPCプログラム推進の為3人の調査員をカンボジアへ派遣した。
- 2014.09月
 - ・CPC2ndプログラム推進の為カンボジアから2名招聘し
1ヶ月半の研修実施
- 2015.09-11月
 - ・CPCプログラム3rdステージを企画しカンボジアから3
名招聘 2名は2週間 1名は約6週間滞在し研修実施。
- 09月
 - ・愛知県主催 EXPO10th事業に積極的に参加
- 11月
 - ・カンボジアへの「第6回フレンドシップ旅行」実施

名古屋大学とも連携しカンボジア留学生との交流をますます充実させて
いきたい。

その他の記録

1.幸田町とシエム・リアップ州

2010.11月 シエム・リアップ州副知事と幸田町長とで「友好に関する覚書」に調印。

2.幸田ライオンズクラブの活動

2007年2月よりシエム・リアップ州のトラキエット小学校の校舎建設支援に取り組み2009年2月に竣工した。

以降、高学年生のために「修学旅行・アンコールワット」プログラムを定着化している。

K I Aは旅行の度に訪問したり幸田町の小学生の図画の送付など行っている。

3.アンコールクラブ

K I Aはカンボジア旅行参加経験者を中心に「アンコールクラブ」を作り時をみて折に触れ集まり「カンボジアあれこれ」で話を弾ませている。

4.フレンドシップ提携以前の活動など

1998～2003年頃の間、在名古屋JICAのカンボジア研修生や名古屋大学留学生有志が幸田町の学校を訪問しアプサラダンス講習などをした。また町民の舞踊グループのご婦人方ともアプサラダンスを一緒に楽しむ場を持ち交流した。

幸田町は消防車（廃車品）をNGOを通じてカンボジアへ寄贈したこともある。

最後に

この10年余を写真や記録で振り返ると多くの方々に支えられここまで歩んで来たと関係各位に感謝申し上げます。

カンボジア王国 その穏やかな国情 純粋な人達

しかし10年前のカンボジアと今のカンボジアを比べると驚くほど経済発展を遂げつつあります。そしてこれから10年後のカンボジアはさらに成長を続けていることでしょう。

私たちはその成長の原資となるカンボジアの青年と交流を続けてきました。日本で学べることは惜しみなく機会を提供し私たちも学ばせてもらう。

そんな関係を保ちながらカンボジア・日本 両国の更なる友好関係が幸田町からも築けることを光栄に思います。

特に2013年から活動を始めたCPC活動（カンボジアの就学前幼児の知育・保育を支援する活動）は2005年の愛・地球博の基金の援助をいただき3年にわたり幸田町にカンボジア研修生を毎年2～3名招聘できました。

カンボジアの経済発展に伴う保育制度は間違いなく必要になります。誰も着手しなかった試みに私たちが取り組むようになったということはこの10年の交流の中から生み出した成果のひとつとっております。

国の宝である小さな子供たちがのびのびと育ち将来のカンボジアを背負っていってくれるよう私たちがすこしでもお役に立てれば嬉しい限りです。あのキラキラ輝く瞳が褪せることのないよう今後もカンボジアとの交流を続けて行きます。



もっと

世界を身近に

For closer ties with the world



幸田町国際交流協会

KOTA INTERNATIONAL ASSOCIATION

〒444-0113 幸田町菱池字錦田3 TEL・FAX 0564-62-2424

E-mail:k-i-a@ar.wakwak.com